

八雲を知れば、 熊本がもっと好きになる！



本市ともゆかりの深い明治時代の作家・小泉八雲(＝ラフカディオ・ハーン)。
彼の妻・セツをモデルにしたNHKの連続テレビ小説「ばけばけ」が
いよいよ9月29日(月)から放送。
そこで今号では、知っているようで知らない八雲の世界をご紹介します。
知ればもっと、熊本が好きになるはず！

小泉八雲の
代表作



怪談

耳なし芳一
雪女
ろくろ首

熊本ゆかりの作品

夏の日の夢(『東の国から』所収)
石仏(『東の国から』所収)
願望成就(『東の国から』所収)



History of Yakumo

八雲が歩んだ人生

1850年

6月27日、ギリシャのレフカダ島で次男として生まれる。
父：アイルランド人英国陸軍軍医補のチャールズ・ブッシュ・ハーン
母：ギリシャ人のローザ・アントニア・カシマチ

1866年

16歳のころ、回転ブランコで遊んでいたとき、ロープの結び目が左目に当たり失明。

1874年

日刊新聞シンシナティ・インクワイアラー社の正式社員となる。

1887年

ハーパー社の寄稿家として西インド諸島のマルティニーク島へ。

1890年

急ぎよ日本に行くことを決意し、来日。
島根県松江尋常中学校の英語教師となる。

1891年

身のまわりの世話をしてもらうため松江の士族・小泉湊の娘である小泉セツを雇う。松江市を出発し、熊本市へ移住。第五高等学校(現在の熊本大学の前身校)の英語教師となる。

1894年

五高の瑞邦館で『極東の将来』と題して講演。熊本の美徳「簡易・善良・素朴」を愛し、生活信条とし無用なぜいたくと浪費を憎む精神であると結んだ。熊本市を出発し、神戸市へ移住。

1896年

帰化手続きが完了し、小泉八雲と改名。東京帝国大学文科大学の英文学講師に就任。

1904年

早稲田大学講師に就任。代表作『怪談』を出版。
心臓発作により他界。享年54歳。

来日・来熊のきっかけ

英訳された『古事記』に描かれた、美しい日本に引かれて来日。古事記に「日本の始まりの場所」と記されている出雲から、日本での暮らしをスタートさせます。出雲で妻・セツとの出会いを果たした後、山陰の厳しい冬の寒さに耐えられず来熊。

第五高等学校(現・熊本大学)の英語教師として、本市で3年間過ごしました。

八雲とセツが見た熊本の風景

熊本での暮らしや、日々、目にする景色からインスピレーションを得て生み出された作品もあります。

本を読んでゆかりの地を訪ねると、一層楽しめます。

①小泉八雲熊本旧居 (熊本市指定有形文化財)

熊本に来て、最初に住んだ家です。この家を借りるにあたって、ハーンは特別に注文して神棚を設けました。毎朝、神棚に拍手を打って拝礼し、人力車で学校に通うほど日本の心を深く愛していたそうです。

日本を世界に紹介した『知られぬ日本の面影』『東の国から』などの著書は熊本での生活から生み出されたものです。

■住所／熊本市中央区安政町2-6 ■問い合わせ／☎096-328-2740(文化財課)
■利用時間／午前9時半～午後4時半 ■定休日／月曜(祝日の場合は翌日)、12月29日～1月3日
※イベントに伴い、10月29日(水)、30日(木)、11月6日(木)は臨時休館。
※イベント期間中は、一般入場をお断りすることがあります。
■入館料／大人・高校生200円、小・中学生100円、未就学児無料(本市在住の小・中学生、65歳以上の方は無料)

②小峯墓地の石仏 ③五高記念館

熊本大学の裏、立田山の登り口にある小峯墓地に、ひっそりとたたずむ地蔵を八雲はとても気に入り、授業の合間やセツとの散歩でよく訪れていたそうです。『石仏』(『東の国から』所収)の舞台とされています。近くには、教鞭をとった第五高等学校(現在の熊本大学の前身校)の校舎「五高記念館(国の重要文化財)」があります。

